

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

### 『 調査結果による強み・弱み 』

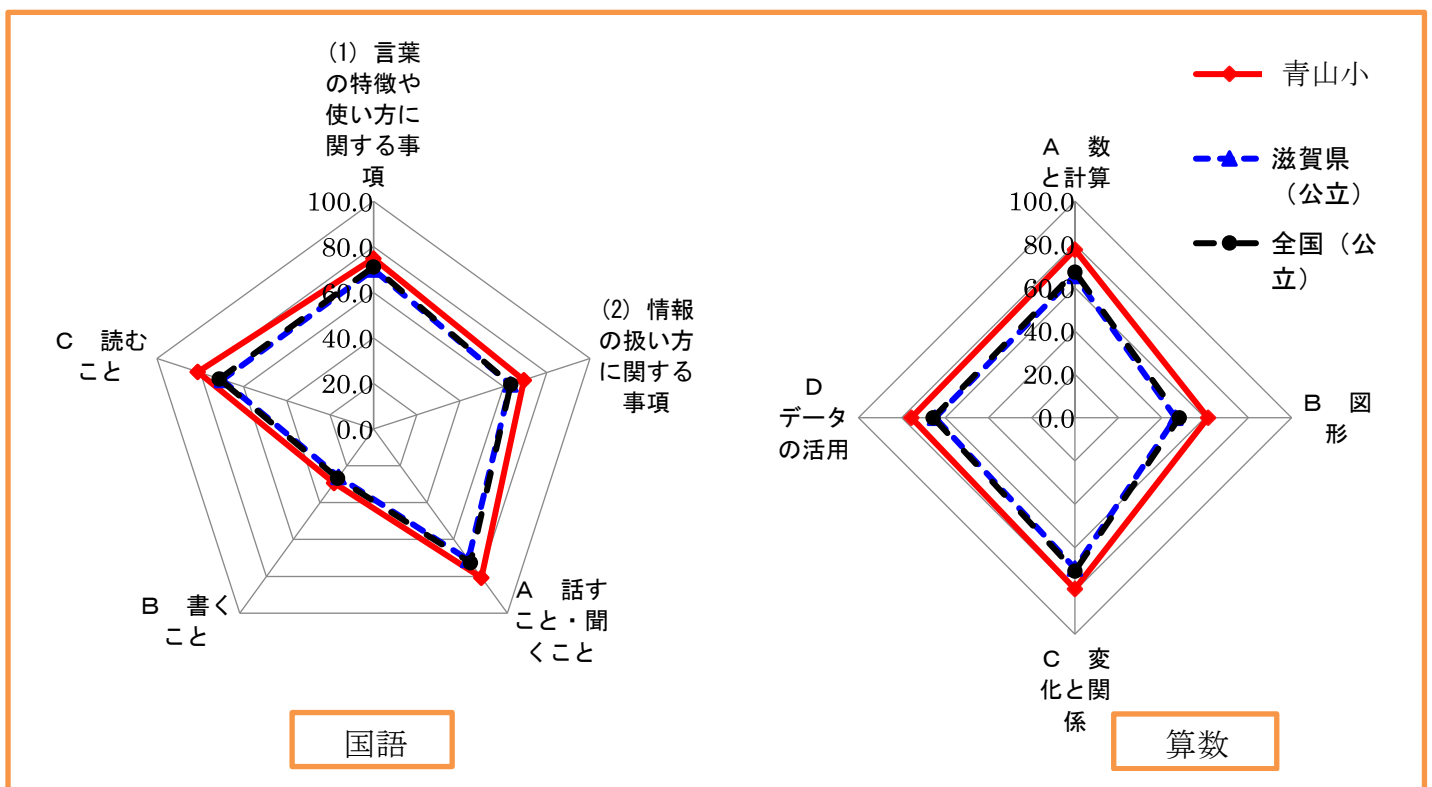
#### <学習面>

##### 【正答率より】

- 国語科、算数科とも全調査項目において、全国平均値を上回る正答率でした（下のグラフ ◆参照）。2教科ともに、各問題に対しての正答率が高いだけでなく、無解答率も非常に低く（無解答者が少ない）、粘り強く最後まで解答しようとする姿が見られました。
- 国語科の「書くこと」では、図表やグラフなどを活用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題において、全国平均正答率を上回っていたものの、3割程度の正答率でした。
- 算数科においては、どの区分においても、全国平均を10ポイント以上上回っており、これまでの学習の定着ができていく児童が多くいることが分かりました。

##### ◆学習指導要領の内容の平均正答率の状況◆

※本校の傾向をみるためのものであり、他校と比較できるものではありません。  
（文部科学省からのデータをそのまま掲載しています。）



#### <生活面>

##### 【質問紙調査より】

- 生活習慣に関する項目では、肯定的な回答が多く、基本的な生活習慣が身につけていることが伺えました。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」や「人が困っている時進んで助けていますか」の設問では、県や全国平均に比べて、肯定的な回答が少ない結果でした。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の設問において、「そう思う」と回答した児童は3割程度でした。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問においても「そう思う」と回答した児童は2割程度にとどまり、全国や県と比較しても低いポイントでした。

- 学習習慣の項目では、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の設問に対しては、県や全国と比べてさほど変わらなかったものの、「学校の授業時間以外に、普段どれくらいの時間、勉強しますか」では、平日1時間以上と答えた児童が6割いました。また、読書量についても、平日30分以上読書していると答えた児童が6割を超えていました。これらのことから、基本的な学習習慣が身につけている児童が多いことがわかりました。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対して、「当てはまる」と答えた児童は1割程度で、「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的な回答をした児童を含めても、半数には満たない結果でした。「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」についても、県や全国平均より肯定的な回答が少ない結果でした。

### 【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

#### ○学校教育目標の実現に向けて

しっかりとした学習習慣等、児童の強みを最大限に生かしながら、教育課程を見直し、学校教育目標である「じっくりと考え、考えたことをもとに行動をおこす青山っ子」の育成を図っていく。

#### ○授業改善

様々な情報から必要な情報を選んで自分の考えをまとめたり、自分とは違う意見を受け入れてよりよいものを創り出したりする活動を意図的に多く取り入れることで、児童の考えを広げたり、考えを深めたりできるように努める。具体的には、授業研究会等を通して、グループでの意見交流や話し合い活動の効果的な活用について検討し、集団で学ぶよさを感じられるように努める。また、授業と関連した家庭学習の取り組みやタブレットの有効活用についても模索していく。

#### ○コミュニケーション力や自己有用感を高めるために

ソーシャルスキルについて学ぶ場や学年を超えて交流できる活動を仕組み、誰かの役に立つ喜びや人とつながるよさを感じられるようにする。

#### ○家庭・地域・学校の連携

コミュニティースクールとして、「家庭」「地域」「学校」が一体となった教育活動を図る。